

釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会  
再生普及行動計画ワーキンググループ（第7回）

議事要旨

平成 17 年 5 月 12 日（水） 18:30～20:30

釧路地方合同庁舎 4 階 共用第 2 会議室

【出席者（敬称略）】

WG 構成メンバー

<個人（所属）>

- ・ 金子正美（酪農学園大学環境システム学部 助教授）
- ・ 新庄久志（釧路国際ウェットランドセンター主幹）
- ・ 永瀬知志

<団体（出席者）>

- ・ 釧路武佐の森の会（大西英一）
- ・ 釧路湿原ボランティアレンジャーの会（近藤一燈美）
- ・ ボランティアネットワーク・チャレンジ隊（佐竹直子）
- ・ NPO 法人釧路湿原やちの会（佐藤吉人）
- ・ 釧路市民活動センター わっと（普久原涼太）

<関係行政機関（出席者）>

- ・ 国土交通省北海道開発局釧路開発建設部（治水課長／大串弘哉）
- ・ 環境省東北北海道地区自然保護事務所（所長／星野一昭、次長／吉中厚裕）
- ・ 林野庁北海道森林管理局釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター（所長／池田敏邦）
- ・ 北海道釧路支庁（地域政策部環境生活課自然環境係長／後藤達彦、同主事／松本直也）
- ・ 釧路市（環境部環境政策課／福田芳弘）
- ・ 釧路町（産業経済課／小原勝也）

再生普及小委員会（所属）

<個人（所属）>

- ・ 高橋忠一（北海道教育大学釧路校 助教授）

<団体（出席者）>

- ・ 釧路生物談話会（一條信明）
- ・ こどもエコクラブくしろ（佐々木誠治）
- ・ くしろネイチャーゲームの会（渡部清紀）

ワーキンググループ事務局

- ・ 環境省東北北海道地区自然保護事務所（山本豊）
- ・ 財団法人北海道環境財団（安保芳久、内田しのぶ、久保田学）

【議事概要】

〈事務局〉 第 7 回再生普及行動計画ワーキンググループ（以下「行動計画 WG と表記」）を開催する。

ここからは進行を座長にお任せする。

〈座長〉 今回は再生普及小委員会提出に向けて行動計画を点検、まとめていただく。ではまず資料 1-1 及び 1-2 について事務局からの説明を求める。

〈事務局〉 資料 1-1『2005 年度具体的取組予定 募集結果』および資料 1-2『応募一覧表』に沿って説明。

- 〈座長〉ここまで、事務局の説明に質問などあればお受けする。
- 〈委員〉ホームページを見ての問い合わせがあったとのことだが、自然再生事業に人々を取り込んでいくにはやはり口コミでの情報の広がりこそがもっとも有効であると感じる。
- 〈委員〉「市民活動センターわっと」は窓口が広く、いろんな人がやってくる。直接話す機会を持つことで、今回の締切が過ぎて二の足を踏んでいる人にも声を掛けることができる。しかし、今後より多くの人の参加を促すため、締切後も募集していることが分かるような工夫が必要。
- 〈座長〉今回の募集には締切りがあったが、それを過ぎてから年度途中ででも取り組みたい、という人々をどうするか。
- 〈委員〉年度当初にまとめる具体的取組みとは別に、随時事務局が取組みを把握してゆけば良いと思う。「具体的取組み予定」として表にまとめるのが年1回なので、年度途中参加の取組みは事務局が把握し暫定リストのようなものを作っておいてはどうか。再生普及小委員会が開催されるときには追加の取組み報告をし、翌年度の「具体的取組み予定」に含めることにすればよいのではないか。
- 〈座長〉それについては、再生普及小委員会にて検討してもらえるようWGとして提案したい。
- 〈委員〉参加する時期にせよ、各自が持つ具体的取組みの内容如何にせよ、参加したいと思う人々に門戸を広げ、そんな人々を巻き込み、自然再生に繋いでいくコーディネーターのような立場に我々が立つことが大切と思われる。
- 〈座長〉では次に具体的取組み予定（資料2-2）について、事務局からの説明を求める。
- 〈事務局〉資料2-2『2005年度具体的取組み予定（事務局案）』に沿って説明。
- 〈座長〉各項目についてご議論いただきたい。まず「人々の湿原への関心を喚起する」について意見はないか。
- 〈座長〉対象者が特定されていない3項目（応募一覧表番号4,6,7）はすべて「会員・一般」と思うがどうか。（異議なし）
- 〈事務局〉ハンドルネームでの扱いを依頼された取組み（応募一覧表番号8,9）があるのだがどうか。
- 〈委員〉公にはハンドルネームのみであっても、事務局が本人について把握しているのであれば問題は無いと思う。
- 〈委員〉行動計画（案）5 ページの▲印がついている「道外・海外へ情報を発信する」の取組みに今回応募があった。行動計画（案）から▲印を取り除いて良いと思うがどうか。
- 〈座長〉ラムサール条約国や国際NGOに英語版のニュースレターを送っている。▲印を取り除くということが良いと思う。
- 〈座長〉では続いて「湿原と人との関わりの歴史と今を知る」について意見はないか。
- 〈事務局〉応募一覧表番号10,43は十勝での取組みとなるがどうか。
- 〈座長〉タンチョウとシマフクロウの会（応募一覧表番号10）について、十勝では河川沿いにビオトープを作成、そこでタンチョウが営巣するまでになったそうである。
- 〈委員〉十勝夢ツーリズム協会（応募一覧表番号43）について、釧路湿原域でも確かにタンチョウによる食害はあるときいているが、果たしてこれが自然再生に結びつくものだろうか。
- 〈座長〉再生事業を行うために湿原域で調査を行ったり実際に作業を行う機会も多くある。そこに昨今個体数を増やしているタンチョウがいるわけであるから、我々はタンチョウに迷惑を掛けないで調査・作業などに取り組まねばならないが、難しいところがある。
- 〈委員〉十勝と異なり釧路では牧草地が大部分であるため、さほど食害が問題になってこなかったという話もある。しかしタンチョウも増えてきた今、関心を払うべきトピックといえるのではないだろうか。

〈座長〉次に「自然再生の仕組みや動きを広める」について、意見はないか。

〈事務局〉「くしろ環境スクール」(応募一覧表番号 36) を含めることは可能かと思うがどうか。

〈委員〉「くしろ環境スクール」は「自然再生に地域・市民の参加を促す」に入れることが適当と思われる。

〈委員〉釧路ウェットランドセンターの取組みはどうか？

〈委員〉ここは自然再生協議会の取組みばかりではあるが、いろいろな立場の構成員の参加による協議会が「自然再生の仕組みや動きを広める」ことになるので、このままでいいと思われる。

〈座長〉では次に「自然再生について情報公開と合意形成を進める」について意見はないか。

〈事務局〉行動計画 WG が主催者となっている取組みについて、対象者をどう考えればよいか。

〈委員〉構成員・一般ということでよいと思う。

〈座長〉次に「自然再生に地域・市民の参加を促す」について意見はないか。対象者が特定されていないものがあるようだがどうか。

〈委員〉(応募一覧表番号 46 について) 標茶高等学校の学生が実験に取組み、その結果を大学のフォーラムにて発表もしている。対象者は「生徒」で良いと思う。

〈委員〉応募一覧表番号 19 の対象者は「委員」ということで良いと思う。

〈座長〉次に「自然再生への幅広い支援・協力を求める」について意見はないか。評価手法が「寄附金額」となっているものがあるが、これは「協賛・寄附件数」とするほうが適当と考える。

〈事務局〉備考に「運用に関する詳細な検討が必要」との記載があるが、これは削除するか。

〈委員〉評価手法は金額ではなく、たくさんの方が参加してくれたことを表す「件数」とするのが妥当ではないか。金銭の使い方については別途検討せねばならないと考える。

〈座長〉では評価手法を「協賛・寄附件数」と修正し、また備考への記載は不要とする。

次に「湿原と継続的に関わる学びの場を作る」について意見はないか。

〈委員〉応募一覧表番号 45 について、この表と行動計画(案)から▲印は取り除いて良いと思う。

〈事務局〉「釧路湿原“音”探検隊」(応募一覧表番号 12) について、共催者を探しておられたので釧路市生涯学習センターを紹介したところ、7月に共催で取組みが実施されることになった。

〈委員〉では釧路市生涯学習センターも「釧路湿原“音”探検」の「主催者・協力者」に併記するというのでよいのではないか。

〈事務局〉釧路市生涯学習センターに確認を取った上で併記するものとする。

〈委員〉「釧路湿原川レンジャー」(応募一覧表番号 35) について、これは「自然再生に地域・市民の参加を促す」での記載だけでよいと考える。

〈座長〉続いて「国立公園の新しい利用形態を創り出す」について意見はないか。十勝夢ツーリズム(応募一覧表番号 43) はここに再掲する必要はあるか？

〈事務局〉再掲は誤りでした。削除いただきたい。

〈委員〉再掲もいくつもあるが、応募された取組みのメインが判りづらいことがある。

〈座長〉「湿原を訪れる人へのサービスを改善する」について意見はないか。

〈事務局〉サービスというくくりで見ると応募一覧表番号 38,40 も再掲になるかと考えるがどうか。

〈委員〉再掲してよいと思う。

〈座長〉このようなものも含めると、こういった取り組みでも良い、という可能性を広げていけると思う。JRなどもぜひ参加して欲しいものである。

〈座長〉「人・施設・地域のネットワークをつくる」について意見はないか。応募一覧表番号 31 の対象者については、施設間ということで「指導員」ということでよいのではないか。(異議なし)

〈座長〉応募一覧表番号 21 については、地元の人々が交流しているわけだから対象者は「一般」でよ

いと思う。

〈座長〉 以上で全てをまとめたこととなる。これを 2005 年度の具体的取組み予定として再生普及小委員会に提出することになる。また、釧路湿原自然再生普及行動計画（案）も再生普及小委員会に提出することになるが、それについて事務局からの説明を求める。

〈事務局〉 資料 2-1『釧路湿原自然再生普及行動計画（案）』に沿って説明。

〈座長〉 意見はないか。

〈委員〉 2 ページの経緯で、協議会と小委員会の第何回という記載が抜けているので追加願いたい。

〈委員〉 WGの流れ、小委員会・協議会の流れをそれぞれ分けて記載するほうが分かりやすいと思う。

〈委員〉 再生普及小委員会に出すための「案」ならば、表紙の提出日は 5 月になるのではないか。

〈委員〉 提出者の記載も修正が必要である。WGが再生普及小委員会に提出する表紙、また再生普及小委員会が自然再生協議会に提出する表紙、それぞれ違うものになると思う。

〈座長〉 それらを修正し、釧路湿原自然再生普及行動計画（案）として再生普及小委員会に提出するものとする。次に、今後のスケジュールについて事務局からの説明を求める。

〈事務局〉 資料 2-3『今後のスケジュールについて』に沿って説明。

〈座長〉 実施者からアウトプットをいただくがあるが、どのようなフォーマットでもらうべきか。

〈委員〉 基本的に自由でよいと思うが、写真を提出していただくと思う。

〈座長〉 アウトプットのモデルのようなものを複数提示するのはどうか。共通次項は取組み実施の日付と参加人数程度で良いと思う。

〈事務局〉 評価手法に基づく内容は、報告として主催者・協力者からもらう予定である。

〈座長〉 事務的な内容の報告書を要求するわけにはいかないと思う。

〈委員〉 取組みを広く紹介することが目的であるから、その情報を提供いただくという姿勢が大切だと思う。

〈座長〉 公開はホームページとなるのか？

〈事務局〉 ホームページおよび紙媒体を考えている。

〈委員〉 ホームページならば画像が必要と思われる。

〈座長〉 年度末にはこれら事例の評価を全て取りまとめる、ということで間違いないか。

〈事務局〉 間違いない。

〈委員〉 48 件あるわけだから、新聞で実施報告を連載することも可能ではないか。また、報告書が集まってきた年明けぐらいに集中して連載することで、新年度の募集に向けた広告効果もあるであろう。新聞に載ることを意識して写真などを実施者等に提出して貰えば良いのではないか。

〈座長〉 いずれにしても取りまとめについては検討せねばならない。

〈座長〉 以上で本日の議事は終了とする。最後に何か意見などあれば頂戴する。

〈委員〉 小委員会も協議会も今度は平日の昼間に実施される、ということで仕事をしている人は出席できない場合があるのではないか。配慮してもらいたい。

〈座長〉 それでは、進行を事務局にお返しする。

〈事務局〉 今後の協力をお願い、および事務局住所・電話番号変更について連絡。

本日の行動計画WGを終了とする。

以上